

2019年度日本海洋学会秋季評議員会議事録

日時:2019年9月26日(木)18:00~20:00

場所:富山国際会議場 204 会議室

出席者:神田会長、伊藤(進)副会長、宗林監査、日比谷監査、相木、秋友、安藤、石井、石坂、市川、植原、植松、江淵、大島、岡、小川、小埜、小畑、郭、川合(義)、北出、轡田、久保川、根田、齊藤、須賀、杉崎、鈴木、多田、張、津田、東塚、中村、西岡、羽角、花輪、原田、広瀬、本多、升本、道田、森本、安田(一)、山中、安中、吉川、寄高各評議員(47名)

松野沿岸海洋研究会会長・西南支部支部長、永田三賞選考委員長、上野論文賞選考委員長、福田環境科学賞選考委員長、渡辺ブレイクスルー研究会会長代理、乙坂幹事、帰山幹事、西部幹事、三角幹事、毎日学術フォーラム(平坂)

委任状:磯辺、岩坂、川合(美)、千手、武田、千葉、中野、三寺、見延、安田(珠)各評議員(10名)

開会に先立ち、北出集会担当幹事より、出席者 57 名、委任状 10 通で評議員会細則第 3 条の規定による評議員会の成立要件を満たしている旨報告があった。

1. 会長挨拶(神田会長)

評議員会開催に先立ち、神田会長より挨拶があった。本州の日本海側での大会開催は 1996 年に松江で開催されて以来 16 年ぶりであることが述べられ、張大会実行委員長をはじめ大会運営の関係各位に感謝の意が示された。

第 12 回海洋立国推進功労者表彰の「海洋に関する顕著な功績分野」において宗林由樹会員と磯辺篤彦会員が受賞したことが報告された。また、JO のインパクトファクターが 2 を越えたことが報告された。

金成誠一会員、蓮本浩志会員、勝馬武会員がご逝去されたことが報告され、哀悼の意が示された。

9 月 15 日に学術会議で大型研究マスタープランに提案している「深海アルゴフロートの全球展開による気候・生態系変動予測の高精度化」のヒアリングが行われ、日比谷前会長がプレゼンテーションを行い、神田会長と古生物学会の遠藤東京大学教授が陪席したことが報告された。本大会から、これまで春季大会で実施してきた授賞式を受賞記念講演と合わせて秋季大会で実施することが報告された。授賞式を秋季大会に移した影響もあり、春季大会で開催した総会の出席者が少なかったことが述べられ、その対応として総会を夕方ではなく昼休みに実施する案について本評議員会にて諮ることが述べられた。

幹事会内に 3 つの WG(将来構想、80 周年記念事業、春季大会検討)を立ち上げ、検討を行

っていることが報告された。

2. 大会委員長挨拶(張大会委員長)

本大会は富山地区で実施される初めての海洋学会であることが述べられ、14名の実行委員とともに大会の運営にあたっていることが述べられた。9月26日夕刻時点で、420名の参加登録があったことが報告された。

9月22日から25日まで、SCORの総会が17年ぶりに日本で開催され、21カ国55名のSCORメンバーが集まったことが報告された。SCORの総会に先だって富山県と共催で開催したシンポジウム「増える海洋環境への脅威と対応 海洋ゴミの今とその先へ」では200人規模の会場がほぼ満席となったことが報告され、海洋の問題に対する市民の関心の高さが伺われたことが報告された。

9月25日に実施されたSCORと海洋学会のジョイントシンポジウム「日本の海洋科学:現在と将来」では、SCOR側から22名の参加があり、SCORの委員からも好評であったことが報告された。

SCOR関連のイベントを含めると運営の5日目にあたるが、海洋学会の開催についても引き続き気を引き締めて臨んでいくという所信が述べられ、本大会が盛況であること祈念する旨、挨拶があった。

3. 報告事項

1) 会務報告

庶務(岡幹事)

会員異動状況について報告があった。

編集

① JO(江淵編集委員長)

発行状況、投稿・受理状況、編集委員の交代、懸案事項について報告があった。

科研費新学術領域「海洋混合学の創設」(OMIX)の特集号が評議員会で承認されたことが報告された。

② 海の研究(北出編集委員長代理)

2019年度の発行状況、論文の投稿状況について報告があった。

③ JOS ニュースレター(安藤編集委員長)

2019年度の発行状況、第3号(11/1発行)にむけて準備中であることについて報告があった。

研究発表(西部幹事)

2019 年度春季大会の実施報告、2020～2021 年度の大会実施予定について報告があった。

賞選考

① 学会賞・岡田賞・宇田賞(永田委員長)

選考過程について報告があった。

② 日高論文賞、奨励論文賞(上野委員長)

選考過程について報告があった。

③ 環境科学賞(福田委員長)

選考過程について報告があった。

選挙管理(岡幹事代理)

2019 年度に実施する選挙及び選挙スケジュールについて報告があり、選挙管理委員会の設置について報告があった。

広報委員会(安中委員長)

海洋学を学べる大学一覧を学会ウェブページに掲載したことについて報告があった。

広報委員会とブレイクスルー研究会の共催で 9 月 25 日に実施したナイトセッションについて報告があった。

海洋環境委員会(小埜委員長代理)

2019 年度青い海助成事業の助成について募集中であることについて報告があった。

海洋観測ガイドライン編集委員会(乙坂委員長)

英文第 4 版の編集作業の進捗について報告があった。

西南支部(松野支部長)

2019 年 11 月 27 日に佐世保市労働福祉センターにて日本海洋学会西南支部・水産海洋学会合同シンポジウム「魚礁を取り巻く海洋環境と漁場整備技術」が行われることが報告された。

海洋環境問題研究会(小埜研究会会長代理)

2020 年度のシンポジウムの準備状況について報告があった。

沿岸海洋研究会(松野研究会会長)

2019 年度の「沿岸海洋研究」の発行状況について報告があった。8 月に発行した第 57 巻 1 号以降は web 公開方式に移行し、2 年間は会員限定の公開になること、1 年分まとめて冊子体で発行すること、表紙を刷新する予定であることなどが報告された。

海洋生物学研究会(杉崎研究会会長)

委員の交代について報告があった。2020年3月21～22日に「海洋生物シンポジウム2020」を東京海洋大学にて開催することが報告された。

教育問題研究会(須賀研究会会長)

2019年度上期の活動状況及び下期の活動予定について報告された。講師派遣依頼に協力した第13回国際地学オリンピック韓国大会において、代表生徒4名が金メダル、ゲスト生徒1名も金メダル相当であったこと、代表生徒全員が金メダルを獲得したのは初めてであることについて報告があった。

ブレークスルー研究会(渡辺研究会会長代理)

2018年度に実施したクラウドファンディングによる研修プログラムの報告を春季大会で行ったことが報告された。また、広報委員会と共催でキャノン財団の方に講演を行って頂き、21名の参加があったことが報告された。次年度、ブレークスルー研究会としてセッション提案を行う予定であることが報告された。

2) 学界動向(伊藤副会長)

19件の学界関連情報について報告された。

日本地球惑星科学連合(川合幹事)

来年度のJpGU-AGU Joint Meetingの開催日程、セッション提案受付、選挙、表彰等について報告があった。AGUとのジョイントの開催になるため、英語のセッションを積極的に提案して欲しいということが述べられた。

大型研究マスタープラン2020の海洋学会提案の内容について、9月15日に文科省でヒアリングが行われたことが報告された。

水産・海洋科学研究連絡協議会(北出幹事)

令和元年度第一回水産・海洋科学研究連絡協議会が2019年5月30日に開催されたことが報告された。

3) その他

「一家に1枚」ポスター(伊藤副会長)

「一家に1枚」ポスター企画提案に関する進捗状況について報告があった。

4. 審議事項

1) 2020年度通常総会の日程について(神田会長・川合幹事)

2020年度日本海洋学会通常総会をJpGU-AGU Joint Meeting 2020の昼休みに実施することについて審議し、承認された。評議員会の開催方法などについては、今後幹事会内で再検討することとなった。

2) 沿岸海洋研究会会長交代について(岡幹事)

沿岸海洋研究会会長を、松野会員から多田会員に交代する件について審議し、承認された。多田新研究会会長から、研究会の運営を変えている中で、まとまっていない部分を軌道に乗せていくことに尽力していく旨、挨拶があった。

3) その他

名誉会員の推薦について質疑があり、本年度は定員超過のため推薦を見送ることについて報告があった。

5. その他

福島第一原発事故によって生じた汚染水(処理済み水)の海洋放出に対する海洋学会の対応について質疑があり、議論を行った。

以上